

森林環境教育 豊前市立角田小学校(3,4年生 14名) ～校庭でのフィールドビンゴ～

最初に小学校から総合学習としての森林環境教育の授業開始の言葉を受けて、私たち森林インストラクターの自己紹介と森林インストラクターの紹介、森の案内人や自然の大切さを地域の皆さんに伝えていることを説明しました。角田小学校も年々児童数が減り、今年からは2学年が一緒の授業が始まり、数年後には角田小学校も統廃合されるとのことでした。そのような事情で来年は森林環境教育が催されなくなることもあり、急ぎよ、3年生も加えた授業となりました。

始まる直前に雨がぱらつき、子ども達のテンションが下がり気味でしたので、田んぼの畦道などに見られる田舎の子どもであれば誰もが知っているひいつき坊を取り上げたミミクリーの話をしました。すると、子どもたちが運動靴を見ながら「マジックテープ」と同じではどこからか回答が聞こえてきました。少し打ち解けてから蚊の針、水をはじく葉っぱの自然界の不思議さを楽しみました。



6月にもなると花は終わり、そろそろ実になる時期、ウメ、アンズ、ユリノキ、ヤマモモ、ソテツの実、サクラとアリの共生、樹木のねっこ、クスノキの葉の臭い、野鳥の鳴き声などの事象を確認しながら自然観察を楽しみました。子ども達に人気があったのは豊前市の木であり、真っ赤に熟した美味しそうな実を付けたヤマモモとイロハカエデのプロペラのような実でした。イロハカエデの実を採取し、持ち帰る子どももいました。



森林の話では、日本は森林大国であること紹介し、戦後のスギ、ヒノキの植林の意義と広葉樹の効能を説明した後、全国のサクラにまつわる話を続けました。子ども達には少し難しかったようですが、説明者より後で一人一人に配布した資料を読んでくださいと注釈をして終わりました。

振り返りでは、樹木について何も知りませんでした。今日、少し知ることが出来ましたとの返事に対し、今日、学んだ知識を基に新たな目線で物事を見て下さいと締めくくり、本日の森林環境教育を終えました。(スタッフ:宮本、轟、中村)

